



〇〇〇 1月末から2月のできごと 〇〇〇

**新生徒会始動！！**

1月26日、2年生中心の生徒会となって初めての生徒集会が行われました。少し早めに会場に行くと、2年生が全員で準備をしており、準備が終わると、フロアにいる2年生が「並ぼう」と声を掛け合い、整列して1、3年生を待つ姿がありました。2年生全員が生徒会をリードしてくれている様子に、力強さを感じました。

集会では、各委員会のスローガンと3学期の活動について発表があった後、代議員会、保健委員会、文化奉仕委員会から、具体的な活動の説明や、新型コロナウイルス感染症予防の啓発をしてきました。聞く人に分かりやすいよう、伝え方にも工夫をしていて、「伝えたい」という思いが伝わってきました。また1・3年生も、発表する人の方をさっと向き、うなずきながら聞くなど、全校で「受け止めよう」とする様子がありました。



**うえだ七夕文学賞表彰式**

国語科の授業の一環としてつくった短歌を、「うえだ七夕文学賞」に応募したところ、2年生2人の生徒の作品が入選し、1月27日、校長室で表彰式が行われました。お二人ともおめでとうございます。

<並木 庵さん>

「さようなら」 そう言われるのが寂しくて 今日私は「またね」を選ぶ

<上原 妃華さん>

蛍舞う 田沢の川の橋の上

祖母と妹 夢幻の世界

情景や思いが想像され、心にじわっときます。また、二人の入賞と併せて、青木中学校が特別賞『団体賞』をいただきました。

**第2回 スキルアップ研修(1月28日)**

今年度2回目の職員研修(スキルアップ研修)を行いました。どの授業も、考えたいような学習課題(問題)が設定されており、「他の人はどう考えたんだろう」と、友達の考えを知りたいような場面がたくさんありました。学んでいる生徒の目は、“興味津々のまなざし”でした。指導主事の先生を案内しながら、生徒がチャイム着席をととても意識していること、お互いに教え合ったり考えあったりすることが自然にできること、廊下でお客さんに会ったときに、しっかり挨拶ができることなどが、とても自慢に思えました。これも、日頃からの生徒や職員の取り組みの成果です。



**地域参観日(1月30日)**

新型コロナウイルス感染症対策のため、受付での検温や廊下からの参観など、不自由な思いの中でしたが、お忙しい中、多くの保護者の方々が参観してくださいました。授業に臨む生徒は、少し恥ずかしそうな、照れくさそうな、うれしそうな様子でした。3年生にとっては、お家の方にこうして授業を見ていただくのも、これが最後という人もいるかもしれません。参観、ありがとうございました。



2月12日(金) 公立高校後期選抜に挑む3年生が、合格への願いを込め、願書の作成を行いました。この願書には、受験票もついています。当日、この受験票がお守り代わりになりますように。公立後期選抜まであと少しです。  
ガンバレ3年生!

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、少しでも実施可能で学びのある修学旅行先を自分たちで考えようと、2年生が奮闘中。各班でコースを考え、3月2日、業者や保護者の方にも同席していただきながらプレゼンを行い、投票で行き先を決める予定です。

手作りの修学旅行。どんなプランが飛び出すか、どこに決まるのか、何を学ぶのか。行き先を決めるだけではない大きな意義を、準備から振り返りまでの学習をとおして、ぜひ実感して欲しいと思います。



## 校長講話より

### 東本大震災が起きてから 10 年

先日、土曜日の夜 11 時過ぎ、福島県沖を震源とするマグニチュード 7.3 の地震があり、最大震度 6 強を観測しました。震源の深さは約 60 キロ。気象庁によると、2011 年 3 月の東日本大震災の余震と考えられるそうです。今回の地震では津波の心配はありませんでしたが、もう少し浅い地点が震源であれば、津波の心配もあったそうです。また、こういった地震は今後更に 10 年くらいは続く可能性があるという報道されています。

### 日頃の訓練の成果

10 年前の東日本大震災で、地震があった岩手県釜石市の子どもたちの生存率は 99.8% でした。当時マスコミは「釜石の奇跡」といって褒めましたが、釜石市の人たちは「これは奇跡ではなく、子どもたちが普段、訓練していたからこそ、できたことなのです」と話しています。

当日、岩手県釜石市の小学校では、下校後の地震発生によって誰の指示もなく、自分で考え、判断しなければならぬ状況でした。ある小学 1 年の児童は、自宅に 1 人でいましたが、学校で訓練したとおり、避難所まで自力で避難しました。また、小学 6 年の児童は、2 年生の弟と 2 人、自宅にいました。「逃げようよ」という弟をなだめ、自宅の 3 階まで上り難を逃れました。授業で見た VTR を思い出したからです。既に周辺は数十センチの水量で、自分たちで逃げるのはとても無理だと判断したのです。また、中学生は、「君たちは守られる側ではなく、守る側だ。自分より弱い立場にある小学生や高齢者を連れて逃げるんだ」と教えられていました。「釜石市の奇跡」は、多くの小中学生が教えを实践した成果だといえます。

### 自分で考え行動する力

釜石東中学校では、地震が起きると、壊れてしまった校内放送など意味をなさぬ中、「点呼などどらなくてもいい」という先生の指示で、生徒が自主的に校庭を駆け抜け、「津波が来るぞ」と叫びながら避難所まで移動しました。日頃から一緒に避難する訓練を重ねていた、小学生たちは、中学生の声を聴き、後に続けました。ところが、避難場所の裏手は崖が崩れそうになっていたため、中学生がさらに高台へ移ることを提案し、避難しました。ある者は小学生の手を引き、ある者は途中で遭遇した幼児が乗るベビーカーを押して走りました。間もなく、避難所は波にさらわれてしまいました。彼らは、誰かの指示ではなく、自分たちの身体で感じたことをもとに日頃の避難訓練を生かして行動し、自分たちの命を救ったのです。

### 自分の命は自分で守る 自分で判断できる人間を目指そう

一方、宮城県石巻市の大川小学校では、児童 108 人のうち、74 人が命を落とし、行方不明になりました。地震発生は、「帰りの会」の最中でした。机の下に隠れて揺れが治まるのを待ちました。下校を始めていた一部の児童も学校に戻ってきました。地震発生から 15 分後には、児童が校庭に避難してきました。普段の津波の訓練では、学校の裏山に逃げるようになっていましたが、そのとき裏山は木が倒れかかり雪もあって、校庭に留まるか、他の場所に逃げるか先生方も迷っていた結果、避難を始めたのは 3 時 25 分頃。そして運命の 3 時 37 分、堤防道路付近にいた避難途中の子どもたちを津波が一気に飲み込みました。

一瞬の判断の違いが、悲しい結果を生んでしまいました。私たちは、このような事実があったことを覚えておかなければなりません。また、命の大切さと自然の計り知れない力をわかって生きていく必要があります。先日の地震の際、「この地震による津波の心配はありません」と報道されましたが、多くの住民が高台に避難したそうです。「津波の心配がないというが、信じられなかった」「10 年前の苦い経験から学んだので、避難した」とのことです。どのような環境にあっても、「自分の命は、自分で守る」ことを心がけ、自分で判断できる人間を目指してほしいと思います。同時に、中学生である皆さんは、「君たちは守られる側ではなく、守る側だ。自分より弱い立場にある小学生や高齢者を連れて逃げるんだ」ということも心にとめておいてください。

## ◇◇◇◇◇ 3月の予定 ◇◇◇◇◇

- |                                |                     |
|--------------------------------|---------------------|
| 2日(火) 2学年修学旅行プレゼン大会            | 15日(月) 生徒会退会式       |
| 3日(水) 公立後期志願変更〆切(正午)           | 16日(火) 3学期終業式 卒業式準備 |
| 8日(月) 1・2年生徒会 年度末清掃<br>(~15日)  | 17日(水) 卒業証書授与式      |
| 9日(火) 公立後期選抜① ワックスがけ           | 18日(木) 年度末始休業(~4/5) |
| 10日(水) 公立後期選抜②<br>1・2年薬物乱用防止教育 | 29日(月) 新2・3年登校日     |
| 11日(木) 3年薬物乱用防止教育              |                     |
| 12日(金) 3学年性被害防止教室              |                     |



予定は変わる可能性があります。変更につきましては、「学校通信」「オクレンジャー」等により、随時お知らせして参ります。ご理解とご協力をお願いします。